

2008年10月5日

経堂バプテスト教会

No. 23



教会短信

牧師 間瀬 善彦

ある時、中学生の方に質問を受けたことがあります。聖書の中の『見失った羊』のたとえについてです。100匹の羊がいて、1匹の羊が迷っていなくなりました。羊飼いはその迷った1匹を捜すために、99匹を野原に残して、捜し回ります。そして、見つけたら、喜んで友達や近所の人びとに「見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください」と言うのです。

この中学生の質問は、野原に残された99匹が置き去りにされて可愛そうだ、ということでした。確かに、迷い出た1匹のために、99匹が置き去りにされるのであれば、残された99匹が危険にさらされることになるかもしれません。民主主義の論理から言いますと、99匹は羊飼いに保護される資格がありますし、1匹が迷い出たのは自己責任だ、と言えないこともありません。どっちがより大切かということが質問の趣旨だったのでしょう。

これに対して、聖書から示される神の御心は、このどちらも大切である、ひとりひとりの存在が大切なのだ、ということなのです。このたとえでは、迷い出た1匹に焦点が当てられているのです。99匹が決しておろそかにされているわけではありません。99対1という多数決ですと、少数の意見はなかなか反映されません。しかし、神は少数者の意見も尊重されようとされるのです。存在に関しても同様です。ですから、道からはずれ迷い出た者を懸命に捜し出そうとされるのです。

このわたくし自身も、人生に迷い、人生の目的は何か、自分は何のために生きているのだろうか、と迷っているときに、神によって見つけ出していただいた者です。神に見い出していただかなかったとしたら、いったいわたくしはどうなっていたでしょうか。生きる意味もわからず、神から愛されていることも知らず、ただ無為に生きていたのではないかと思います。ひとりでも多くの人びとに神に愛されている喜びを知っていただきたいと願います。

祈りつつ歩む日々

2003年3月、私はある私立大学を定年退職しました。夢中になって授業や研究に取り組んでいるうちに十数年があっという間に過ぎ、第二の人生を計画する暇もありませんでした。私の心の中には空虚な大きな穴がぼっかり空いていました。当時、私はカトリック教会の信徒でした。毎週日曜日にミサにあずかり、荘厳なグレゴリアン聖歌を聴き、定められているその日のお祈りを声を合わせて唱えても、御聖体を拝領しても、私の心の穴は消えませんでした。これはカトリック教会が悪いのではなく、原因は私にありました。聖書をあまり真剣に読まず、荘厳な雰囲気にとっぷりと浸ることによって、自分の信仰は日々深められているはずだと思い込んでいたのです。

ちょうどその頃、世田谷の教会に讃美歌を歌う会があると友人に誘われました。私はその「讃美の集い」に参加しました。経堂バプテスト教会との出会いです。礼拝にも参加してみました。カトリック教会とは違って、各自が自分の言葉で祈っているのが素晴らしいと思いました。聖書の一言一句を牧師が解説してくださり、礼拝後、納得のいくまで教会学校で皆が質問していました。その後、私はこの教会の教会員になりました。最近、私たちは二人ずつ組んでお互いに相手のために祈っています。またこの教会を訪れたことのある方々のことも祈っています。親族でも親友でもない姉妹が私のために祈ってくださいました。そのお祈りのあまりの真剣さに私は涙が出ました。

今まで、「生きる」ということは、生存競争を続けることであると信じ、その競争に勝つために、時には他人の存在が憎しみや嫉妬の対象になることもありました。他人を両手で押しのけて階段をのぼってきたこともありました。そして聖書を読むうちにその生き方は私の心の中の罪から生まれ、人生の空虚さはそれが原因であることに気がつきました。「生きる」ということは生存競争をして勝者になることではなく、お互いに助け合って心をつにし、イエス様の手肢となって神様にお仕えすることであり、私がこの世に存在している理由は、神様の愛をまだ知らない方々に伝えることだということを信仰生活から学びました。

今は、イエス様が私に働きかけてくださり、イエス様のお望み通りの行動ができますようにと毎日祈っております。もっと年老いて寝たきりになり、手足を動かせなくなっても、兄弟姉妹のため、また悲しみや苦しみの中にある方々のためにお祈りをすることができると思います。私の未来は希望に満ちています。神様は汚れた罪を持っている私を見出し、救い出してくださいました。そして、「生きる」ことの本当の意味を教えてくださいました。心の目を開けていただいた私は、マルコによる福音書10章50～52節の盲人バルティマイのようにどこまでもイエス様に従っていきたいと思います。

T. K



疲れた者、重荷を負う者は、
だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。

マタイ福音書 11 : 28

人は慢性的に疲れてしまうと、どこか体が悲鳴をあげます。働きづめで病気に、それも心の病気になる人が身近な所でも増えています。また悩みがあり、いつも心の晴れない人も増えています。聖書のみことばには安らぎがあります。教会にいらして聖書のお話を聞いてみませんか。心身ともに安らぎます。

【教会ではペットボトルのキャップを集めています。】

ペットボトルのキャップ800個で、子供一人分のポリオワクチンが受けられます。
「世界の子供にワクチンを」と子供たちのために集めています。
ペットボトルのキャップは、ポリプロピレンという材質で、車のバンパーや壁や床のパネル材に再生できます。

キャップ400個をごみとして燃やすと3150gの二酸化炭素が発生します。
環境面にも良い活動です。

教会バザー 11月30日(日)

12時30分～14時30分

今年も秋のバザーの季節になりました。

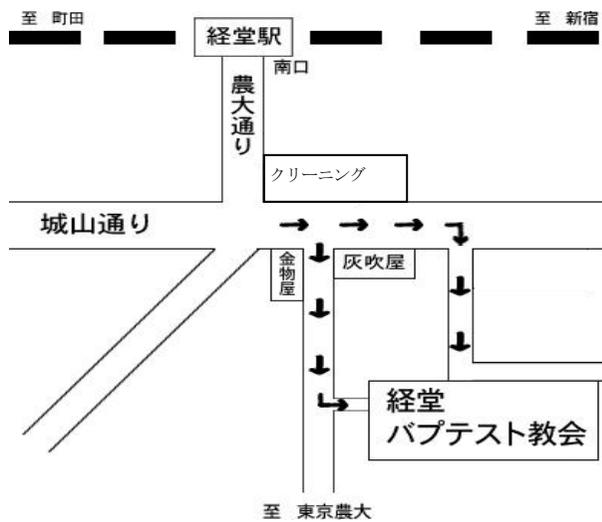
食べ物、アクセサリー、本、洋服など、たくさん準備いたしております。

今年もお待ちしています。



日曜日は教会へ 集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。